

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

全羅北道扶安郡の肉用あひるのAI疑い事例に対する防疫措置事項

(2014年1月18日11時00分付け 農林畜産食品部プレスリリース)

出典URL: http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155445247§ion_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2014&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=2&parent_code=3&popup_yn=N&tab_yn=N

(機械翻訳に基づく仮訳)

農林畜産食品部は、1月16日、全羅北道高敞(コチャン)郡の種あひるにおける高病原性鳥インフルエンザの発生及び、1月17日の全羅北道扶安(プアン)郡の肉用あひるのAI疑い事例の報告以外にAIの報告事例はないことを明らかにした。

最近のAI発生件の原因究明のための疫学調査の過程で、1月17日高敞郡一帯でサンプル採取した野生の鳥斃死体(25羽)についても精密検査中であると明らかにした。

また、発生農場(高敞郡)と疑い事例のあった農場(扶安郡)、野鳥の斃死体発生地域(高敞郡)との間の疫学的関連、それに対する遮断防疫措置の必要性(数限定の移動制御など)などを議論するために、家畜防疫協議会を緊急召集する予定であることを明らかにした。

併せて、1月17日に届け出された全羅北道扶安郡の肉用あひるにおけるAIの検査状況は昨夜11時に試料が検疫本部に到着され、検査中であり、高病原性鳥インフルエンザの判定は、1月19日午後に出る予定だ。

同農場の肉用あひるは2013年12月13日、全羅南道羅州に所在する孵化場から譲り受けた35日齢のあひるで、譲渡を受けた後、食肉処理場などに出荷(あひるは40日齢以上)されたことがないことが把握された。

また、全羅北道高敞高病原性鳥インフルエンザ発生農場とは約10kmの離れた距離に位置しており、関連について疫学的に分析し、以下のことが判明している。

*防疫対策別農家の現状: 500m(4農家62千羽)、3km以内(45農家、867千羽)、3~10km(438農家、4,800千羽)

農林畜産食品部は、高病原性であることが判明する可能性に備え、事前に強力な防疫措置を実施していることを明らかにした。まず、該当農場の消毒と移動規制措置をしており、3km以内の家禽農家に対しても、同様の遮断防疫を実施していると述べた。併せて、農林畜産食品部の機動防疫チーム及び家畜衛生防疫支援本部の防疫員を派遣し、あひるがAI感染の症状を見せているかどうか調査をしていると明らかにした。

-確認の結果、高病原性AIに感染したと疑われる症状(致死率の急増、産卵率の急減など)を見せる農場がある場合は、予防的殺処分の措置を通した事前的な防疫措置を推進する計画だと明らかにした。特に、農場に出入りする車両の情報がGPSを介してリアルタイムに把握されている点を活用し、不審事例が発生した農場に出入りした畜産車両の情報も把握していると述べた。農林畜産食品部は今後、高病原性鳥インフルエンザであると確定診断された場合に備えて、関連部署(国防部・警察庁:人材、疾病管理本部:抗ウイルス製剤の供給など)に協力要請をしており、自

治体、関連機関や団体などにも事態に備えた事前準備態勢を整え行ことを要請した。一方、全北道高敞郡の高病原性鳥インフルエンザH5N8 型は、国内で初めて発生した鳥インフルエンザの種類であり、過去に国内で4回発生した高病原性鳥インフルエンザは、H5N1であったと明らかにした。（1月17日20時30分ブリーフィング時の説明）

H5N8は、中国の江蘇省の飼育マガモから2010年1回分離されたことが報告されており、人が感染して死亡した事例はないものと認識されている。農林畜産食品部関係者は、全国の家禽畜産農家は防疫消毒を徹底し、AIに感染したと疑われる症状（飼料摂取率と産卵率の急減、チアノーゼ、急激な致死率等）が発生した場合、すぐに農林水産食品部、農林畜産検疫本部またはその自治体の防疫担当部署に届出（1588-4060、1588-9060）してくれるよう呼びかけた。

農林畜産食品部は国民も、AI発生地域の家禽飼育農場訪問を控えて、渡り鳥の飛来地を旅行する場合には、渡り鳥の糞便が靴に付着しないよう注意し、海外AI発生地域を訪問する際にも家禽農場に行かない等の家禽の接触を控えいただくようお願いしている。また、高病原性AIが発生した農場の家禽は、移動が厳しく制御された状態であり、殺処分または廃棄されるため、市中に流通するようなことはあり得ず、たとえAIウイルスに汚染された鶏肉が流通している場合にも、加熱して食べると、絶対に安全であり、世界保健機関（WHO）、国連食糧農業機関（FAO）なども加熱した鶏肉、あひる肉及び卵の摂取に起因するAIの感染の危険性はないと結論付けており、消費者が家禽消費のために不必要な不安感を持たないよう呼びかけた。

※本情報は、韓国農林畜産食品部公表情報が、1月18日に公表した情報について、機械翻訳に基づき仮訳したものです。